

# 東京病院ニュース

第13号 2006年1月1日発行



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院  
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1  
TEL 0424 (91) 2111 FAX 0424 (94) 2168  
ダイレクト・イン・ダイヤル 0424 (91) 4134  
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>



## 曲がり角の医療・曲がり角の東京病院

来年度予算案の編成にあたって、政府は公的保険で医療機関が受け取る診療報酬を現行比で最大3.16%引き下げることを行いました。

今回の改定で国庫負担は2500億円程度削減できる見込みとありますが、保険医療機関は大小さまざまな影響を受けることになりますし、医療を受ける方々でも場合によって窓口負担が一部増えることがあります。限られた医療資源の有効活用は重要課題ですし過剰病床を削減する努力が必要なことも当然のことですが、高齢者社会でケアのためのコスト増が不可避であるのも自明のことといわねばなりません。医療費削減をおし進めているだけですべての問題が解決するわけではないのです。そもそもわが国の医療費30兆円はGDP比でみると国際的に高くはありませんし、一方、国内ではそれに匹敵する額のお金がパチンコ業に流れているという皮肉な現実もあります。「お金を何に使うべきか」はよほどよく考えなければならない命題ではないでしょうか。

さて、東京病院にとって昨年の大きな出来事のひとつに病院機能評価の受審があります。これは病院機能を全般にわたってチェックするよい機会でもありました。この作業をつうじていろいろ改善がなされましたが一方、このような守備固めだけでなく、診療スタッフを若干名増員することもできました。21世紀は選択された病院が生き残る時代です。当院が伝統の強みを発展させながらより広範な医療を提供できる病院になるよう努力したいと思います。

病院長 四元 秀毅

## あけましておめでとうございます

この冬は昨年十二月から寒波にみまわれ記録的な大雪をもたらしています。雪の被害に遭われている地方の方々には心からお見舞いを申し上げます。しかし、このような気候時期は、東京病院の病棟からは富士山が貴婦人のような姿をくっきりと現し入院患者さまや、職員の目を楽ませてくれます。

昨年5月東京病院は日本医療機能評価機構が行う、機能評価を受審し、8月に結果を受け取りました。結果は、1. 侵襲を伴う検査・処置・手術の医師の説明の際に看護師などが同席するよう努めること。 2. 診療情報管理士またはこれに準ずる職員の配置。 3. 病棟での麻薬の定数配置を廃止。 4. リハビリテーション計画を患者、家族へ十分説明するよう努める。 5. 臨床工学士の確保。 6. 職員の定期健康診断を全員が受診するよう努める。以上6項目の改善要望事項を提起され、「保留」というものでした。

機能評価受審は、サーベイヤーから医療を受ける立場からの視点で人権・医療者の倫理観が問いかけられ審査が実施されていきました。今年の早い時期には「認定書」を病院正面玄関に掲げられるよう現在取り組んでいる改善項目をクリアします。病院機能評価受審の精神、経験は今後病院にとっても職員にとっても大きなエネルギーとなるでしょう。

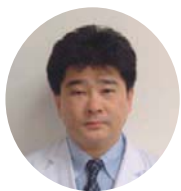
平成18年度は診療報酬引き下げ、医療制度改革と厳しい課題もあります。少子高齢化が進む社会の中で保健・医療を取り巻く状況は大きく変化しています。東京病院が地域の方々から信頼され、必要とされる病院となっていくために、独立法人化、中期計画半ばの平成18年は大きな意味を持つ年となります。中期計画目標達成のために院長指揮のもと看護部一同力を合わせて頑張ります。

看護部長 平塚 和子

## COPD研究会開催

11月11日に当院で第二回北多摩地区COPD地域連携研究会が開催され、当院呼吸器科、町田和子先生が司会で私もCOPDガイドラインについて発表しました。この会は小平、東久留米、清瀬の三市の病院、診療所間の連携を深めることで、地域住民の健康増進をはかることを目的として、今年から始まったものです。COPDはタバコによっておきる肺の生活習慣病で、運動すると息切れしますが、診断のついていない場合が多く、病院に通っていない人が、通っている人の10倍以上いるといわれています。禁煙が最高の治療で、日本呼吸器学会から治療と診断のガイドラインが出ています。40歳以上で一日にタバコを20本以上すっている人がいたら、まず、近くの診療所で相談してみてください。肺活量を測る器械があれば比較的簡単に診断できます。当院でもCOPDの診断、治療、禁煙教育において、呼吸器科の医師が担当しております。

呼吸器科医師 松井 弘稔



## 転任のご挨拶

このたび12月1日付で国立病院機構埼玉病院より異動となりました神経内科の石津暢隆と申します。神経内科全域にわたり担当させて頂きたいと思っております。神経内科といえばいま脊髄小脳変性症に関するテレビドラマなどで取り上げられており徐々に知名度が上昇してきていますが、まだまだ患者さんにとっては名前からはわかりにくい科であろうかと思っております。そのあたりが悩ましいところでもあるのですが、めまい、頭痛、脳血管障害から変性疾患に至るまで多くの疾患を扱いますので比較的コンサルテーションも多く、またその都度新しい発見があることもあり、やりがいのある科だとも思っています。

埼玉病院では主に急性期の疾患に対応させて頂きました。これからの季節は気温の低下とともに脳血管障害が急増し大変忙しくなる時期に埼玉を離れるのは少し心苦しい思いがございますが今後は以前、新潟大学脳研究所神経内科で学んだことを生かして神経難病の方のために少しでも力になることができると考えています。

また急性疾患につきましてもできる限り対応させて頂きたいと思っております。何よりも人間関係を大事に、『楽しく』をモットーに仲良く仕事をさせていただきたいと思っておりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

神経内科医師 石津 暢隆

## 東京病院栄養サポートチーム (NST) の稼働に向けた取り組みについて

### 栄養サポートチーム (以下 NST) とは・・・

医師・看護師・薬剤師・栄養士・検査技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等の医療スタッフがそれぞれの専門知識を生かしながら、力をあわせて、患者さまに適した栄養管理を行うチームのことです。

### 今なぜ、栄養管理が必要なのでしょう・・・

栄養状態が悪ければ、病気や外傷、手術などからの回復が遅れたり、日常生活の動作やQOL (生活の質) が低下するだけでなく、手術後の合併症、感染症、褥瘡などの増加にもつながります。適切な栄養管理は基本的な治療手段の一つであり、栄養状態の改善が重要な意味をもつことが強く認識されてきました。

2005年2月にNHKテレビで「食べて治す～患者を支える栄養サポートチーム～」というスペシャル番組が放映され、ご覧になられた方も多くいらっしゃると思いますが、歴史あるNHKスペシャルの中でも視聴率がNO. 1とも聞いています。医療現場でのNSTの実際の取り組みや内容について紹介されました。

### NSTの主な役割はどんなことでしょうか・・・

- ①栄養評価 (アセスメント) を行い、栄養管理が必要かどうかを判定する。
- ②適切な栄養管理が行われているかどうかをチェックする。
- ③患者さま個々に最もふさわしい栄養管理の方法を指導・提言する。
- ④栄養管理に伴う合併症を予防・早期発見・治療する。
- ⑤栄養管理上の疑問に答える。
- ⑥患者さまの早期退院や社会復帰を助け、QOLを向上させる。
- ⑦新しい知識・技術の紹介や啓発をする。

### 当院での取り組みについて・・・

昨年7月、院内の職員を対象としたNST講演会終了時に、院長、副院長のGOサインを受け、今年4月からの本格的な活動にむけて、呼吸器内科赤川院長をリーダーにワーキンググループを発足し勉強会を行ってきました。すでに褥瘡チームで活動されているリハビリ科新藤医師の協力もいただいています。毎回各メンバーが熱心に参加し、栄養管理の基礎知識を学んでいます。1月からは、具体的な症例の検討をしながら実践的な活動を目標として準備をすすめています。

院内で期待され、信頼されるチームに成長したいとスタッフ一同熱き思いでおります。職員の皆様そして多方面からの情報提供等含めまして、バックアップをよろしく願っています。

栄養管理室長 佐藤 明子



## —アスベスト外来について—

この1月から呼吸器内科にアスベスト外来が開設されます。その診療を担当させていただくことになりました。毎週木曜日、午後1:30からですのでよろしくお願い致します。

ところで、アスベスト関連肺疾患に関する報道は公的救済問題も含めて昨年の大きなニュースの一つであったと思われます。アスベストは日本語で石綿 (せきめん、いしわた) と呼ばれる天然の繊維状鉱物で、軽くて綿のようにふわふわしているため加工しやすい一方で、火に強い、電気を通さない、腐食しにくい、などの性質を持ち、古くは造船、蒸気機関製造、その後は建材や自動車部品、吹きつけ材などに広く使用されてきました。

石綿の吸入によって起こり得る肺の病気にはいくつかのタイプがあります。胸に水がたまる、肺が硬くなり縮んでくる、肺を包む膜 (胸膜) や肺自体に腫瘍ができる、などですが、発病まで平均40年前後を要し、石綿関連の職場を離れた後に発病される方もおられます。日本での石綿の輸入は1970年～1980年代がピークであったため、今後、石綿関連肺疾患を発症される方が増加していくと予測されています。石綿工場の近隣に生活されていた方、石綿を扱う仕事をされていた方の作業着を洗濯されていた方なども石綿を吸入していた可能性があります。石綿を少しでも吸入すると必ず肺の病気になってしまうということではありません。また、石綿関連肺疾患に特異的な症状というものはありません。例えば、胸に水がたまってくると動いた時に息が切れたり動悸がしたりすることがありますが、心臓が悪くて胸に水がたまる場合にも同じような症状になります。石綿吸入歴がある場合、呼吸器症状がなくても定期的にチェックを受けておくということが重要です。忙しい方も職場や自治体の健 (検) 診などで胸のX線撮影だけでもしておかれると良いでしょう。

当院では、基本診療に加えて、胸のCTスキャンやMRI、詳しい肺機能検査、気管支鏡や胸腔鏡などの高度に専門的な検査、また、内科的治療や外科手術にいたるまで、あらゆる石綿関連肺疾患の適切な診断と治療が可能です。アスベスト外来はそれらの窓口として機能するとともに、慢性期の内科的管理も行います。石綿の吸入に関してご心配な方もおられると思われるのでご相談下さい。受診いただく場合、いつからいつまで、具体的にどのような環境で石綿を吸入した可能性があるのかをできるだけ思い出していただくと肝要かと思われます。

呼吸器科 非常勤医師 臼井 裕



## ～年男・年女～



昨年4月に赴任して以来、皆様に支えられ、こうしてめでたく？回目の年男を迎える事が出来ました。12年前に豆まきをした頃と比べると、消化器外科分野は、内視鏡下手術の普及等、大きく進歩しています。当科でも、常にup-to-dateな診療を行ない、当院で手術を受けて良かったと皆様に思ってもらえる様、今年も気合いを入れたいと思います。

外科医長 元吉 誠



今年の抱負

忙しいとゆっくり患者様とお話できないことも多いのですが、今年は忙しい時でも患者様との時間を大切に、常に患者様の気持ちにたった看護を行なっていきたいと思っています。まだまだ未熟な点は多々ありますが、笑顔と思いやりを忘れず、これからも頑張っていきたいと思います。2006年が皆様にとって素敵な1年になりますように☆

5西病棟看護師 源 志織

## 消防訓練の実施について

11月1日(火)15時00分から、火災発生時における初期消火、消防機関等への通報訓練、入院患者さまの避難誘導等の習得を目的に4階西病棟から出火の想定で消防訓練を実施しました。

今回は、夜間想定での消防訓練ということで、夜間勤務者及び病院内宿舎居住者による限られた人数での訓練でしたが、消火訓練・通報訓練・避難訓練が的確に行われました。

続いて清瀬消防署の指導による消火訓練、講習をいただき無事訓練を終了しました。

最後に皆様も日頃から防火意識の重要性を認識していただければと思います。

庶務班長 植田 敏幸

守ろう、私たちの職場  
～平成17年度自衛消防訓練審査会～

火災や地震などの災害は、いつ、どこで発生するか予測できません。災害が発生した場合、被害を拡大しない為に、消防隊が到着するまでの間は職員が初期消火にあたることになります。万一の災害に備えて、自主的な訓練を行うことで防災意識及び防災行動力を高めることを自衛消防訓練といいます。

では、訓練ではどんなことをするのでしょうか？

災害が発生したときに取るべき行動を事前に学ぶため、次のような訓練を主に行います。

## (1) 通報・連絡訓練

119番通報の流れ、放送設備の使い方などを覚えます。

## (2) 消火訓練

消火器や屋内消火栓の使い方を覚えて、模擬消火を行います。

## (3) 総合訓練

実際に火災が起きた場合などを想定し、自衛消防組織に基づく任務に従い、火災の発見から到着した消防隊への情報提供まで、総合的な活動を行います。

そうした日頃の訓練の成果を発表する場として、平成17年10月28日(金)、東京病院駐車場で平成17年度自衛消防訓練審査会が開催されました。わが東京病院からも男子1名・女子1名の混成隊、女子2名の女子隊の2チームが参加しました。消火器・屋内消火栓などを用いたの模擬演技を披露。訓練の成果を存分に発揮し、両隊とも迅速・的確な消火活動を行って、高い評価を受けました。

審査会を通して、日頃から訓練を行い、防災意識を高めることが、患者様ならびに地域の皆様から求められていることだと実感しました。東京病院職員一同、皆様に安心していただけるよう努めていきますので、今後ともよろしく願いいたします。



企画課財務管理係 朝倉 裕介

「インフルエンザは正しい知識をもって、  
予防することが大事！」

風邪やインフルエンザを予防するためのポイントあげました。参考にさせていただき、この冬を乗り切りましょう。

## ■ 人混みを避ける。

インフルエンザシーズンはできるだけ外出を控え、人混みを避けることが大事です。出かけるときはマスクも役に立ちます。

## ■ マスク

普通のマスクも飛沫感染で感染するインフルエンザなどにもある程度有効と思われます。乾燥により気道粘膜が障害を受けると、風邪やインフルエンザにかかりやすくなります。マスクは気道の乾燥を防いでくれますので、風邪やインフルエンザにかかりにくくなります。また、インフルエンザにかかってしまったら、マスクをして他の人にうつさないように心がけることも大事です。

## ■ うがい

うがいは風邪を4割減らすことが、証明されました。帰宅時は必ずうがいをしましょう。

## ■ 手洗い

風邪もインフルエンザも接触感染でうつることがあります。帰宅時はうがいと一緒に必ず行いましょう。

## ■ 栄養

バランスのよい食生活は免疫力を高めます。果物、野菜などを普段より多く食べましょう。

## ■ 運動

適度な運動で、日ごろから体に抵抗力(体力)をつけておくことも大切です。

## ■ 休養

疲労している体にはウイルスが容易に侵入します。疲れたら休養を十分にとり、抵抗力を保ちましょう。

## ■ 保湿

乾燥した室内にいますと、鼻やのどの防御機能が弱まりウイルスに感染しやすくなります。適度な湿度を保つように工夫しましょう。

## ■ インフルエンザはワクチン接種が最も有効な予防策です。

インフルエンザの予防として、流行前の予防接種が有効です(毎年12月上旬くらいまでに済ませておいて下さい)。特に、65歳以上の高齢者や慢性病(心臓病、ぜんそく、糖尿病等)を持つ人に対して、症状の悪化や生命にかかわる合併症を未然に防ぐために、予防接種が勧められています。

## ■ 新型インフルエンザについて

今まで人類が経験したことのないタイプのインフルエンザがそろそろ流行するのではないかと予測されています。その第一候補がトリインフルエンザです。まだトリに濃厚に接触している人にしか感染していませんが、このウイルスが人から人へ簡単にうつるような性質を持ったときは、たいへんな事態になることが予測されています。そのため抗インフルエンザ薬の備蓄を始めており、今から体制を整えているわけです。パニックに陥らないように日頃から正確な情報を集めるように心掛けましょう。

呼吸器科医長 永井 英明

## 編集後記

皆様、あけましておめでとうございます。

寒さに目を覚ます季節となりました。新年は新たな気持ちで迎えられるでしょうか？思い返せば昨年は、ニッポン放送買収問題に始まり、福知山線脱線事故や小泉刺客劇場、マンション構造計算偽造など様々なニュースがマスコミを賑わせました。暗い話題が多く、憂鬱な思いをすることも多い昨今ですが、せめて気分だけでも明るくならないものです。そんな中、当院においては病院機能評価受審が一番大きなイベントだったような気がします。はたして平成18年はどんな1年になるのでしょうか？差し迫っているのは診療報酬引き下げで、国の借金を減らす為に皆で痛みを分かち合おうという一環ですが、当院の借金返済にとっても痛い診療報酬引き下げです。ここは皆んなで協力して頑張っていかねばなりません。東京病院ニュースは、そんな頑張ってる皆さんを今後も紹介していきたいと思っています。

(平成18年1月号編集委員 S・A)

専門外来案内

専門外来名		診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
肝	臓	月～金	体がだるい、黄疸や食欲の低下、健診で肝障害のある方、平成4年以前に輸血を受けた方。
呼吸器関係外来	息切れ	月(午前)	動くと息切れがあったり、最近息切れが強くなってきた方。
	喘息	火(午後)	「喘鳴」「発作性の咳」が主な症状です。特に夜間から明け方の咳き込みは要注意です。
	禁煙	金(午前)	タバコがどうしてもやめられない方。
	肺がん外来	木(午前)	紹介状をお持ちの方、セカンドオピニオンを希望される方。
	間質性肺炎	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
	非定型抗酸菌症	月・水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	気胸	火	突然の胸痛、息苦しさを感じます。
いびき(睡眠時無呼吸症候群の検査)	いびき	木(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われたらご相談ください。
	アスベスト外来	木(午後)	アスベスト(石綿)を扱うお仕事をされた方。アスベスト吸入による肺の病気について御心配な方(予約制です)
手掌多汗症		火	今増加している疾病です。手のひら、腋、顔面の発汗が多い症状です。(汗で手が滑る、握手もできないこともあります。)
ものわすれ外来		水(午後)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。(あらかじめ神経内科を受診して下さい。)
高次脳機能外来		木(午後)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診。)
糖尿病		木(午後)	のどがかわきやすい、体重が減ってきた。(無症状が多いので、健康診断で異常を指摘される場合が多い。)
緩和ケア		木・金(午前)	末期の悪性腫瘍やエイズによる痛みやいろいろな症状でつらい思いをされている方。

受付時間 8:30~11:00 診療時間 8:30~17:15

休診日 土・日・祝祭日および年末年始(12月29日から1月3日)

代表電話番号 0424-91-2111

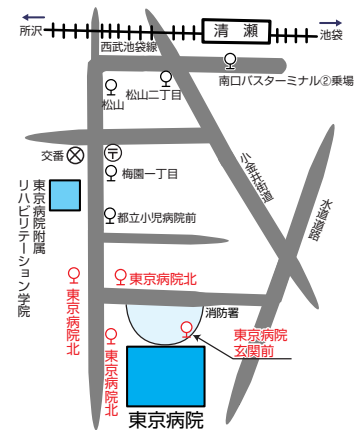
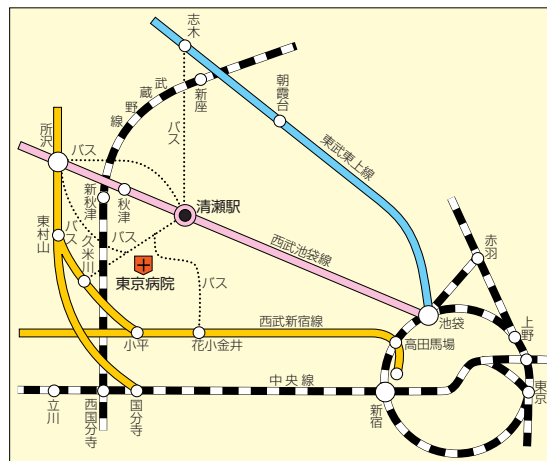
内線番号がおわかりの方は0424-91-4134  
(ダイレクト・イン・ダイヤル)をご利用下さい

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合

外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい FAX 0424-91-2125 (8:30~15:30)  
CT・MRI検査の申し込み : 放射線科へ直接お申し込みください TEL 0424-91-3083 (8:30~17:15)

診療内容 病床数560床

- 呼吸器科
- 消化器科
- 循環器科
- リハビリテーション科
- 呼吸器外科
- 消化器外科
- 神経内科
- 内科
- 外科
- 放射線科
- 麻酔科
- 整形外科
- 緩和ケア科
- ICU(集中治療室)



交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅南口バス3番乗り場より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車で越えの際は正面よりお入り下さい。(駐車場265台)  
30分以内 無料  
31分~2時間 100円  
以後1時間毎 100円  
(20時15分~7時 1時間毎300円)